

予防接種と 子どもの健康

2008年度版



監修 予防接種ガイドライン等検討委員会
発行 財団法人予防接種リサーチセンター

予防接種に行く前のチェック

- 1 お子さんの体調はよいですか。
- 2 今日受ける予防接種について、必要性、効果及び副反応など理解していますか。
わからないことがあれば、質問をメモにしておきましょう。
- 3 母子健康手帳は持ちましたか。
- 4 予診票の記入はすみしましたか。

はじめに

子どもは病気にかかりやすく、かかると重くなることがあります。予防接種で予防できる病気もあります。

この冊子は、大切なあなたのお子さんがこれから受ける予防接種について、正しい知識を持って、安全に受けることができることを願ってつくられたものです。

この冊子があなたのお子さんの健やかな成長に役立つことを願っています。

[今回の主な改正概要]

2007年3月版と比べて今回の改正は、厚生労働省における予防接種関係規則等の改正に伴うものであり、主な内容は以下のとおりです。

(1) 予防接種の接種間隔の表現の変更

ジフテリア・百日せき・破傷風 (DPT)、急性灰白髄炎 (ポリオ) 及び日本脳炎の接種間隔の表現について、従来「〇〇週間から〇〇週間までの間隔をおいて」などと定められていたものを、次のように改められました。

①ジフテリア・百日せき・破傷風 (DPT) の1期初回接種の接種間隔について、「3週間から8週間までの間隔をおいて」を「20日から56日までの間隔をおいて」に。

②急性灰白髄炎 (ポリオ) の接種間隔について、「6週間以上」を「41日以上」に。

③日本脳炎の1期初回の接種間隔について、「1週間から4週間まで」を「6日から28日まで」に。

(注) この冊子の中で (〇〇～〇〇週間) などとあるのは、目安として表記してあります。

(2) 麻しんの3期及び4期の定期予防接種の実施に関する内容の追加

(注1) この改正は、中学1年生及び高校3年生に相当する年齢の者が対象です。

(注2) この改正は、次の状況を踏まえて、厚生労働省の対応を記載していますが、麻しん・風しんの予防には1期及び2期の定期にきちんと予防接種を受けておくことが大切です。

ア 現在の10代及び20代の人たちの中には

① 麻しんワクチンの接種を受けていない者が一定数いること。

② 麻しんに罹患していない者が一定数いること。

③ さらには、1回目のワクチン接種で免疫を獲得できなかった者がいて、かつ、自然感染による免疫増強効果を受ける頻度が低くなってきている。

などのため、麻しんの発生予防に十分な抗体を保有していなかったことで、昨年、この年代に麻しんが流行し、学校が休校するなどが起きました。

イ 麻しんが人から人へ感染しやすく、ときに死に至る重大な疾患であることから、我が国での麻しん発生を2012年(平成24年)までに排除することを目標とした「麻しん排除計画」が策定され、その一環として、平成20～24年度までの5年間、中学1年生と高校3年生に相当する年齢の者を対象に麻しんの3期及び4期の定期予防接種を実施することとなりました。

ウ 風しんについても麻しんと同様とすることとなりました。

目次

1	予防接種を受けましょう	4
2	予防接種とは	5
3	定期の予防接種の対象者（接種時期）	5
4	異なった種類のワクチンを接種する場合の間隔	7
5	予防接種の計画を立ててみましょう	8
6	予防接種の対象となる病気と予防接種による副反応	10
	ポリオ（急性灰白髄炎）	10
	ジフテリア・百日せき・破傷風	12
	麻疹（はしか）・風しん	15
	日本脳炎	19
	結核	21
7	ワクチンの種類と特徴	23
8	予防接種の有効性	24
9	予防接種を受けに行く前に	24
10	副反応がおこった場合の対応	27
11	その他	29
	〔参考〕 予防接種予診票	30

1. 予防接種を受けましょう

お母さんが赤ちゃんにプレゼントした病気に対する抵抗力（免疫）は、百日せきでは生後3ヵ月までに、麻疹（はしか）では生後12ヵ月までにほとんど自然に失われていきます。そのため、この時期を過ぎると、赤ちゃん自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

子どもは発育と共に外出の機会が多くなり、感染症にかかる可能性も高くなります。予防接種に対する正しい理解の下で、お子さんの健康にお役立て下さい。

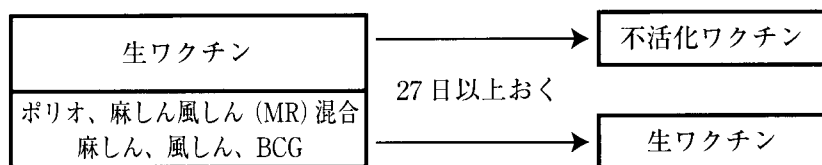
● 感染症

ウイルスや細菌などの微生物が体内に入り、体内で増加することにより発症する病気のことです。微生物の種類によって、発熱やせき、頭痛をはじめとするさまざまな症状が出現します。

4. 異なる種類のワクチンを接種する場合の間隔

予防接種で使うワクチンには、生ワクチンと不活化ワクチンがあり、異なる種類のワクチンを接種する場合に間隔を守ることが必要です。

(ワクチンの特徴については、23頁参照)



(生ワクチンを接種した日の翌日から起算して、別の種類の予防接種を行う日までの間隔は、27日以上おく)



(不活化ワクチンを接種した日の翌日から起算して、別の種類の接種を行う日までの間隔は、6日以上おく)

異なる種類のワクチンを特に急いで接種する必要がある場合は、医師に相談して下さい。

なお、同じ種類のワクチンを複数回接種する場合には、それぞれ定められた間隔があるので、誤らないようにして下さい。

5. 予防接種の計画を立ててみましょう

定期的な予防接種は個別接種が原則となっています。予防接種の具体的な順序や日程は、市区町村のスケジュールやお子さんの体調、病気の流行状況を見て、かかりつけ医と相談して決めて下さい。

なお、ポリオとBCGは集団接種(決められた日時に保健所など決められた場所に行って接種すること。)で行っている市区町村も多いので、注意して下さい。



受ける時期の目安を記入してみましょう

お子さんの生年月日 平成 年 月 日

区 分	接 種 の 目 安	実際の接種日
BCG (生後6月に達するまでの期間)	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
ポリオ (標準的な接種期間：生後3月に達した時から生後18月に達するまでの期間)		
1回目	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
2回目 (1回目を接種した日の翌日から起算して41日(6週間)以上の間隔をおいて)	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
DPT 1期初回 (標準的な接種期間：生後3月に達した時から生後12月に達するまでの期間)		
1回目	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
2回目 (1回目を接種した日の翌日から起算して20～56日(3～8週間)までの間隔をおいて)	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
3回目 (2回目を接種した日の翌日から起算して20～56日(3～8週間)までの間隔をおいて)	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
DPT 1期追加 (標準的な接種期間：初回終了後12月に達した時から18月に達するまでの期間)	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
DT 2期 (標準的な接種期間：11歳に達した時から12歳に至るまでの期間) 注) BCG、ポリオを接種すると27日間接種できなくなるので注意しましょう。	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
MR 1期 (生後12月から生後24月に至るまでの期間)	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
2期 (5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間(いわゆる幼稚園、保育所等の年長児)) 注) 3期及び4期については、必要に応じて追加して下さい。	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
日本脳炎 1期初回 (標準的な接種期間：3歳に達した時から4歳に達するまでの期間)		
1回目	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
2回目 (1回目を接種した日の翌日から起算して6～28日(1～4週間)までの間隔をおいて)	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
1期追加 (標準的な接種期間：4歳に達した時から5歳に達するまでの期間)	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日
2期 (標準的な接種期間：9歳に達した時から10歳に達するまでの期間)	平成 年 月 頃から 平成 年 月 頃まで	年 月 日

6. 予防接種の対象となる病気と予防接種による副反応

予防接種と聞くと副反応が心配なため、ワクチンの接種に対して消極的となる保護者の方もいるようですが、現在日本で使用されているワクチンは、ワクチンの種類によっても異なりますが、副反応の頻度も少ないと考えられています。

しかし、子どもの体質は、それぞれ違うため、程度に差はありますが、副反応が生じる場合もあります。大切なことは、お子さんの体のことをよくわかっているかかりつけ医に体調をよく診てもらい、接種が可能であるかを、よく相談した上で、予防接種を受けるかどうか判断して下さい。

◆ポリオ(急性灰白髄炎)

(1) 病気の説明

「小児まひ」と呼ばれ、わが国でも1960年代前半までは流行を繰り返していましたが、現在は、予防接種の効果で国内での自然感染は報告されていません。しかし、現在でもインド、パキスタン、アフリカの一部などではポリオの流行があることから、これらの地域で日本人がポリオに感染したり、日本にポリオウイルスが入ってくる可能性があります。また、2005年には、一旦は野生ポリオウイルスによる発症者の報告がなくなったインドネシアにおいて、再びポリオが流行するという事態が生じています。

ポリオウイルスはヒトからヒトへ感染します。感染したヒトの便中に排泄されたウイルスが、口から入りのど又は腸に感染します。感染したウイルスは3～35日(平均7～14日)腸の中で増えます。しか

し、ほとんどの場合は、症状がでず、一生抵抗力（免疫）が得られません。症状がでる場合、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染が広がり、麻痺を起こすことがあります（麻痺の発生率は1,000～2,000人に1人）。ポリオウイルスに感染すると100人中5～10人は、かぜ様の症状を呈し、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれます。また、感染した人の中で、約1,000人に1人の確率で麻痺を起こすことがあります。一部の人には、その麻痺が永久に残ります。呼吸困難により死亡することもあります。

(2) ポリオワクチン（経口生ワクチン）

I、II、III型の3つのタイプのポリオワクチンウイルスが混ざっています。ワクチンを受けることによりそれぞれの型に対する抵抗力（免疫）ができます。しかし、1回受けるだけでは1つか2つの型だけに対する抵抗力（免疫）しかできないこともあります。したがって、2回受けること（1回目と2回目の接種の間隔は41日（6週間）以上の間隔が必要です。）により1回目に抵抗力（免疫）ができなかった型に対する抵抗力（免疫）ができることとなります。

ひどい下痢をしていると、ワクチンの効果が弱まるので延期して下さい。

(3) ワクチンの副反応

ワクチンに使用されているウイルスは弱毒化されているため安全ですが、服用後体内で増えるため、450万人以上の投与に1人程度の極めてまれな頻度で、ウイルスが脳脊髄に達して麻痺を生ずることがあります。

また、予防接種を受けた人から接種後15～37日間（平均26日間）にわたってウイルスが便中に排泄されます。このウイルスが、ポリオウイルスに対する免疫を持っていない人（ワクチンの接種を受けてい

ない人など）、または抗体価の低い人に感染して、麻痺を起こすことがあります。その頻度は一定していませんが550万人に1人程度でまれなものです。ポリオワクチンウイルスによる2次感染により健康被害を受けた人のために被害救済事業があります。

(4) 接種時期

	3カ月	6カ月	9カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	
ポリオ	■			●															
	1回目を接種した日の翌日から起算して41日（6週間）以上の間隔をおいて2回接種を行います。																		

◆ジフテリア・百日せき・破傷風

(1) 病気の説明

(ア) ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。

1981年（昭和56年）に現在使われているジフテリア・百日せき・破傷風（DPT）ワクチンが導入され、現在では患者発生数は年間0～1名程度です。しかし、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状がでない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2～3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

(イ) 百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こります。

1948年(昭和23年)から百日せきワクチンの接種がはじまって以来、患者数は減少してきています。

百日せきは、普通のかぜのような症状ではじまります。続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり(チアノーゼ)けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こします。乳児では命を落とすこともあります。

● 飛沫感染

ウイルスや細菌がせきやくしゃみなどにより、細かい唾液や気道分泌物につつまれて空気中へ飛びだし、約1mの範囲で人に感染させることです。

(ウ) 破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。患者の半数は本人や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力(免疫)をもっていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

(2) DPT(ジフテリア・百日せき・破傷風)三種混合ワクチン

1期として初回接種(3回)(20~56日(3~8週間)までの間隔をおいて)、追加接種は初回接種(3回終了)後、6月以上の間隔をおいて、1回行います。

なお、百日咳・ジフテリア・破傷風のいずれかにかかった者もDPTワクチンを使用することが可能とされています。

また、2期として11歳時にDT(ジフテリア・破傷風)二種混合ワクチンで接種を1回行います。

回数が多いので、接種し忘れに注意して下さい。

確実に免疫をつくるためには、決められたとおりに接種を受けることが大切ですが、万一間隔があいてしまった場合には、市区町村とかかりつけ医に相談して下さい。

(3) DPT ワクチンの副反応

1981年(昭和56年)に百日せきワクチンが改良されて以来、日本のワクチンは副反応の少ないワクチンになっています。予防接種後健康状況調査集計報告書平成8~16年度累計(以下「健康状況調査報告」という。)によると、注射部位の発赤・腫脹(はれ)、硬結(しこり)などの局所反応が主で、頻度に程度の差はありますが、初回接種1回目のおと、7日目までに約12.7%、追加接種後7日目までに約40.0%です。なお、硬結(しこり)は少しずつ小さくなりますが、数ヶ月残ることがあります。特に過敏な子で肘をこえて上腕全体がはれた例が少数あります。

通常高熱は出ませんが、接種後24時間以内に37.5℃以上になった子が約0.4%あります。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師に相談して下さい。

(4) DT ワクチンの副反応

「健康状況調査報告」によると、注射部位の発赤・腫脹(はれ)、硬

結（しこり）などの局所反応が主で、7日目までに約29.0%認められます。なお、DPTワクチンと同様に、硬結（しこり）は少しずつ小さくなりますが、数ヶ月残ることがあります。特に過敏な子で肘をこえて上腕全体がはれた例が少数あります。

通常高熱は出ませんが、接種後24時間以内に37.5℃以上になった子が約0.1%あります。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師に相談して下さい。

(5) 接種時期

	3カ月	6カ月	9カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	
DPT1期	■			■注	■														
DT2期												■							

初回接種は20～56日（3～8週間）の間隔において3回行い、初回接種（3回）終了後から6月以上の間隔において追加接種を行います。

注：1期DPT（追加接種）の標準的な接種期間は、1期初回接種（3回）終了後12月に達した時から18月に達するまでの期間です。

◆麻しん（はしか）・風しん

(1) 病気の説明

(ア) 麻しん（はしか）

麻しんウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色

素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人に合併します。脳炎は約1,000人に2人の割合で発生がみられます。また、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約5万例に1例発生します。また、麻しん（はしか）にかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。

● 空気感染（飛沫核感染）

ウイルスや細菌が空気中に飛びだし、1m以上を超えて人に感染させることです。はしか、水ぼうそう、結核等が空気感染します。

(イ) 風しん

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風疹症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

(2) 麻しん風しん（MR）二種混合ワクチン（生ワクチン）

麻しんウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

1歳から2歳の間に麻しん又は風しんにかかる可能性が高いため、1歳になったらなるべく早く1期の予防接種を受けるように努めて下さい。

なお、生後12月未満に麻しん及び風しんのワクチン接種を受けた児についても、第1期予防接種の対象年齢に達した場合には、定期の予防接種を受けることができます。

2期の接種は、小学校就学前の1年間、いわゆる幼稚園、保育所等の年長児が対象者となります。

3期の接種は、13歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までの間にある者(中学1年生に相当する年齢の者)が対象者となります。

4期の接種は、18歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までの間にある者(高校3年生に相当する年齢の者)が対象者となります。

第3期・第4期の接種は、平成20年度から5年間の措置となっております。なお、4月から6月の間に受けることが望ましいとされています。

第1期、第2期、第3期又は第4期において、麻しん及び風しんの予防接種を同時に行う場合は、MR二種混合ワクチンを使用することとされています。

また、麻しん又は風しんのいずれかにかかった者にも、混合ワクチンを使用することが可能とされています。

なお、ガンマグロブリン製剤の注射を受けたことがあるお子さんについての接種時期については、かかりつけ医と相談して下さい。

(3) ワクチンの副反応

(ア) 麻しん風しん(MR)二種混合ワクチン(生ワクチン)

副反応の主なものは、発熱と発疹です。37.5℃以上38.5℃未満の発熱は第1期で約8.6%、第2期で約3.4%にみられます。38.5℃以上の発熱は、第1期で約13.4%、第2期で約4.5%にみられます。発疹は、第1期で約6.6%、第2期で約1.7%にみられます。

他の副反応として、注射部位の発赤・腫脹(はれ)、硬結(しこり)

などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、けいれんなどがみられます。(2006年度MRワクチン健康状況調査(速報))

これまでの麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応のデータから、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性もあります。

(イ) 麻しん(はしか)ワクチン(生ワクチン)

麻しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

ガンマグロブリン製剤の注射を受けたことがあるお子さんについての接種時期については、かかりつけ医と相談して下さい。

定期の予防接種のワクチンの中では発熱率の比較的高いワクチンです。健康状況調査報告によると、ウイルスが体内で増える期間の後(接種後5~14日)に約5.3%に37.5℃以上38.5℃未満、約8.0%に38.5℃以上の発熱、約5.9%に麻しん様の発疹が認められます。通常は1~2日で消失します。

また、発熱に伴う熱性けいれん(約300人に1人)をきたすことがあります。その他、脳炎・脳症(100万~150万人に1人以下)、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)の発症(100万人に0.5~1.0人)が知られています。

(ウ) 風しん(三日ばしか)ワクチン(生ワクチン)

風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

ガンマグロブリン製剤の注射を受けたことがあるお子さんについての接種時期については、かかりつけ医と相談して下さい。

風しんワクチンも生ワクチンですから、麻しんと同じようにウイルスが体内で増えます。健康状況調査報告によると、小児の接種では、接種後5~14日までに約1.9%に37.5℃以上38.5℃未満、約2.7%に38.5℃以上の発熱、約1.2%に発疹、約0.5%にリンパ節腫脹が認められます。予防接種を受けた人から周りの人に感染することはありません。

(4) 接種時期

	3	6	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	カ	カ	カ	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
麻しん(はしか) (MR) 注				4/1生まれ	4/2生まれ																	
風しん (MR) 注				4/1生まれ	4/2生まれ																	

注)：麻しん及び風しんについて同時に行う第1期、第2期、3期又は4期の予防接種は、MR混合ワクチンで接種を行うこととなる。この第3期・第4期は、平成20年度から5年間の措置である。

◆日本脳炎

(1) 病気の説明

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接ではなくブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は毎年6月から10月まで続きますが、この間に、地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。以前は小児、学童に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では予防接種を受けていない高齢者を中心に患者が発生しています。

感染者のうち1,000～5,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の

死亡率は約15%ですが、神経の後遺症を残す人が約50%います。

(2) 日本脳炎ワクチン(不活化ワクチン)

現在の日本脳炎ワクチンは、日本脳炎ウイルスを感染させたマウス脳の中でウイルスを増殖させ、ホルマリンなどでウイルスを殺し(不活化)、精製したものです。

(3) 日本脳炎ワクチンの副反応

健康状況調査報告による副反応としては、2日以内に37.5℃以上の発熱が約1.9%認められ、接種局所の発赤・腫脹(はれ)は約8.2%認められます。発疹も約0.3%みられ、圧痛もまれにみられます。

また、日本脳炎ワクチン接種の70万～200万回に1回程度、極めてまれにADEM(急性散在性脳脊髄炎)が発生すると考えられています。

厚生労働省では、現行の日本脳炎ワクチンと当該ワクチンを接種した後の重症ADEM発生との因果関係があるとの判断から、定期の予防接種として現行の日本脳炎ワクチン接種の積極的勧奨は行わないよう、市町村に対し勧告を行なっています。なお、日本脳炎の流行地域へ渡航するなど、日本脳炎に感染するおそれが高い場合には、これらの措置並びに日本脳炎ワクチンの効果及び副反応を十分に理解し、同意の上で定期の予防接種として接種を受けることは差し支えありません。

● ADEM (急性散在性脳脊髄炎)

一般にウイルス感染後、あるいはワクチン接種後に、まれに発生する脳神経系の病気です。ワクチン接種後の場合は、通常数日から数週間程度で、発熱、頭痛、けいれん、運動障害などの症状がでます。

(4) 接種時期

	3 カ 月	6 カ 月	9 カ 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳	15 歳
日本脳炎	平成17年5月30日以降、ワクチン接種の積極的勧奨が行われていません。但し、接種希望者は定期接種として接種は可能です。																	

◆結核

(1) 病気の説明

結核菌の感染で起こります。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ3万人近い患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）は、お母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

(2) BCG ワクチン（生ワクチン）

BCG は牛型結核菌を弱毒化してつくったワクチンです。

BCG の接種方法は、管針法といってスタンプ方式で上腕の2ヶ所に押しつけて接種します。それ以外の場所に接種するとケロイドなどの副反応が出る可能性が高くなるので、絶対に避けなければなりません。接種したところは、日陰で乾燥させてください。10分程度で乾きます。

(3) BCG の副反応

接種後10日頃に接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後4週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3ヵ月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたり、バンソウコウをはったりしないで、そのまま清潔に保って下さい。ただし、接種後3ヵ月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師に相談して下さい。

副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きく腫れたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。このようなときは医師に相談して下さい。

また、お子さんが結核にかかったことがある場合は、接種後10日以内にコッホ現象（接種局所の発赤・腫脹及び接種局所の化膿等を来し、通常2週間から4週間後に消炎、瘢痕化し、治癒する一連の反応）が起こることがあります。コッホ現象と思われる反応がお子さんにみられた場合は、すみやかに市区町村に相談あるいは、医療機関で受診して下さい。この場合、お子さんに結核をうつした可能性のある家族の方も医療機関を受診するようにしましょう。

(4) 接種時期

	3 カ 月	6 カ 月	9 カ 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳	15 歳
BCG																		

注)：BCGに係る期間は、地理的条件、交通事情、災害の発生その他の特別な事情によりやむを得ないと認められる場合に限り、1歳に達するまでの期間に接種することができる。